発行／青森県立自然ふれあいセンター　〒038-1301 青森県青森市浪岡大字大釈迦字沢内沢 1-1
TEL 0172-62-4527　FAX 0172-62-8510　URL http://www.bonjyu-furesen.info/　メールアドレス bonjyu@jomon.ne.jp

□ 行事レポート □

●梵珠の森春のふれあいデー
4月23日(土)・24日(日)

●梵珠山撮影登山 ～花の美しい時期に～
4月30日(土)

●新緑トレッキング 梵珠山～ブナ岱
5月7日(土)

●ぼんじゅ春の写真展
5月20日(金)～ 6月19日(日)

●梵珠山から三宝の松を経て、鐘撞堂山へ
6月5日(日)

●梵珠山横断トレッキング
少年自然の家～梵珠山 6月26日(日)

●ハルニレ

齋藤 信夫（青森自然誌研究会）

梵珠山ではクルマバツクバネソウを頻繁に見かけることはないような気がする。かつて、今は閉鎖されているカモシカの道を下山中にクルマバツクバネソウに会った記憶があるが、時間の経過とともにそのことを忘れていた時期があった。きっと、私の植物との接し方が植生を仲立ちとしていることから、よほどのことがない限り個々の植物との遭遇が、それほど強く記憶に残らないのであろう。

そうこうしているうちに、平成20年４月から青森県立自然ふれあいセンターは青森県森林組合連合会が管理・運営するようになった。その頃からだろうか、それまでは放置されていた登山道沿いの数か所の藪が刈り払われるようになり、梵珠山の自然を探索する者にとり、多くの場所が、見通しのいい、ゆったり歩くことのできるコースとなったのだ。クルマバツクバネソウは藪が刈り払われたそんな場所で、私たちの目に触れるようになった。きっと、藪だった頃にも生えていたのだろうけれど、それまでクルマバツクバネソウを覆っていたほかの植物が取り除かれたことで、勢いを回復したのかもしれない。

ところで、植物を求めながら県内の山々を歩いていると、ブナ林やミズナラ林の林床に４枚の葉を輪生しているツクバネソウという草本に頻繁に出会う。ただ、４枚の葉の幅は結構変化があり、時には５枚葉も見られることから、駆け出しの私にとりクルマバツクバネソウとの区別がはっきりしない頃もあった。そんな時に、場所は失念しているが、花を咲かせているクルマバツクバネソウに出会い、すぐさま納得したことを思い出す。クルマバツクバネソウの花を見て「蜘蛛の足」を連想してしまった私がそこにいたのだ。葯がやたらに長く、さらに葯隔（やくかく）という部分が葯を突き抜け飛び出している。子房は黒っぽく目立つ。ツクバネソウに比べ荒々しく、今にも動き出そうとしている印象さえあった。クルマバツクバネソウにはそんな強烈な印象が残っている。

さて、梵珠山で春先からクルマバツクバネソウの生長を観察していると、５月上旬ころには柄のない６～８枚ほどの葉を輪生状に開放するという、この種独特の葉の広げ方は完成しており、葉の根元には少しひねりが加わったような槍先のようなものが上向きについているのを見かける。その部分が花になる。５月中旬ころには５～６㎝ほどの花茎の先に花が咲きはじめ、６月中旬には花を終える。下の写真で花弁のように見える部分は萼片といわれる。

咲き始めたクルマバツクバネソウの花
（2019年5月22日）

花が終わったころのクルマバツクバネソウ
（2019年6月18日）

生物こよみ（昨年）　７月　☀☁☂：天気　℃：日最高気温（月最高気温）　低：日最低気温（月最低気温）

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
観察できたもの	アナグマ・ホトトギス	ヤブサメ	アカショウビン	ノシメトンボ	マタタビ・オオバボダイジュ	ノシメトンボ・アキアカネ	ヒメボタル	モイワサナエ・タカネトンボ	ナツアカネ・コガラ	アカショウビン	オニノヤガラ・カナヘビ	エゾアジサイ・オニヤンマ	ミヤマアカネ・ベニシジミ	ニホンザル	ヒオドシチョウ	ハグロトンボ	クルマユリ・ミヤマクワガタ	ミカドフキバッタ	キビタキ・キジバト	シータテハ・アカゲラ	ジムグリ・オニヤンマ	アオゲラ	コゲラ	ノシメトンボ	ミンミンゼミ・マムシ	ヤマカガシ・ヤマドリ	クサギ・イケマ・アブラゼミ	ミンミンゼミ	クマタカ・チチタケ	ジンバイソウ・ネジバナ	リスアカネ・アサマイチモンジ
天	☀	☀	☀	☁	☁	☁	☁	☁	☀	☂	☁	☀	☁	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☁	☀	☀	☀	☀	☀	☂	☁	☀	☀
℃	26	26	22	22	27	21	25	25	26	21	26	27	26	25	26	30	31	31	31	32	32	27	29	29	29	29	24	23	30	31	28
低	17	17	15	15	17	18	18	19	18	18	18	18	20	19	19	19	19	19	19	20	20	22	22	21	22	20	21	21	21	22	22

●シリアゲムシ

市田 忠夫（津軽昆虫同好会）

シリアゲムシは全体的に細長い完全変態の昆虫である。雄も雌も、静止している時は、腹端を上に持ち上げていることから、この名前がある。県内では９種が確認されている。個体数が多く、見かける機会が多い種は、プライヤシリアゲとヤマトシリアゲである。この２種は出現期間も長く、低山地を中心に広く分布する。

シリアゲムシは、婚姻贈呈、すなわち交尾の際に、雄が雌に口移しで餌を与えるのである。この餌は、液体状であり、柔らかい果実や、死んだ昆虫などである。

このように、シリアゲムシの成虫は雑食性である。シリアゲムシは英語ではスコーピオンフライと呼ばれる。その名前のとおり、雄の腹先はサソリの毒針のように反り返っている。捕まえると腹先で刺すような仕草をする。さらに口から未消化の餌を吐き出すが、実際に刺すことはできない。従って、人間には無害な昆虫である。

プライヤシリアゲ

ヤマトシリアゲ

生物こよみ（昨年）　8月　☀☁☂：天気　℃：日最高気温（月最高気温）　低：日最低気温（月最低気温）

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
観察できたもの	アサギマダラ	タマゴタケ	アカハライモリ	ミヤマアカネ	カブトムシ	カラスアゲハ	ニホンザル・ミソサザイ	アオダイショウ	ホンドギツネ	アナグマ	ソバナ・オオアキノキリンソウ	ホンドリス・クマタカ	ツリフネソウ・ゲンノショウコ	アカショウビン	オオルリボシヤンマ	ゴマナ・アカエゾゼミ	アカアシクワガタ	ミドリヒョウモン	ノコンギク	メスグロヒョウモン	コゲラ・ゴジュウカラ	ミンミンゼミ	オトコエシ・ヤマガラ	ノスリ・ミソサザイ	エゾゼミ・ミンミンゼミ	ルリタテハ	コムラサキ	アキノギンリョウソウ	ツチアケビ	エナガ・ヒガラ	オニヤンマ
天	☂	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☂	☂	☁	☁	☁	☁	☀	☀	☁	☀	☀	☀	☁	☁	☀	☁	☂	☀	☁	☀	☀	☀	☀
℃	24	33	33	32	33	33	32	31	24	20	22	21	20	18	21	23	23	27	26	29	25	25	28	26	24	26	29	28	29	28	23
低	22	21	22	22	22	22	23	24	20	18	16	16	14	14	16	16	16	19	19	19	20	21	20	20	20	21	21	19	16	18	15

●ヒョウノセンカタバミ【氷ノ山酢漿草】

長尾 キヨ（津軽植物の会）

今年の大雪には驚いた。梵珠山はいつも雪深い所なので、４月の日曜観察会は雪の上でした。その後季節は順調に移り変わっていく。

５月は梵珠の一番賑わう時 - その中で「春の女神」といったら、ヒョウノセンカタバミでしょう。透けるようなピンクに赤い筋の入った花弁が五枚。太陽に向かって精いっぱい咲いているその美しさに魅了されてしまう。

見頃は五月中旬の寺屋敷北広場一角の群生地。草丈の低い草本なので文字通り足の踏み場もない状態となる。寺屋敷まで登らなくても、ふれあいセンター周辺でも結構見られる。津軽山地では白花は確認されているが、梵珠のピンクの花の色が一番鮮やかだといっても過言ではない。

兵庫・鳥取県境に位置する氷ノ山で初めて確認されたところからつけられた和名である。以前はエゾミヤマカタバミと呼ばれていた。

庭や道端などに生える黄色のカタバミは、厄介者として嫌われるが、同じ仲間のヒョウノセンカタバミは驚くほど大きく優美な花をつけるので、春の花の絶好の被写体としてみんなの注目を集める。

子供のころ、祖父に「この花をかじってみれ」と、いわれ快い酸味を体験したことがなつかしい。

カタバミは全体にシュウ酸を含み酸味が強いので「酢漿草」とも書かれスイモノグサの名があり、料理に利用されることもあるという。

カタバミは古くから知られた植物で、その葉は家紋の図柄として用いられている。片喰（かたばみ）紋は、植物の紋の中では桐紋に次いで多く用いられていることは意外に知られてない。

十円玉をカタバミでみがくとぴかぴかに光ります。どうぞためしてください。

生物こよみ（昨年）　９月　☀☁☂：天気　℃：日最高気温（月最高気温）　低：日最低気温（月最低気温）

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
曜	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
観察できたもの	アカショウビン	コミスジ・ニホンザル	ジャコウソウ・オクトリカブト	サラシナショウマ・ツルリンドウ	ホツツジ・サカハチチョウ	アキアカネ・リスアカネ	ホンドリス	コテングコウモリ	キンミズヒキ	ミズヒキ	カケス	オニヤンマ	オクトリカブト	カモシカ	コゲラ	ニホンザル	アオダイショウ・エナガ	オオアオイトトンボ	ジムグリ・メスグロヒョウモン	コゲラ・シータテハ	ヤマネ	ホンドリス	オオカマキリ・アサギマダラ	アズマヒキガエル	ビンズイ・ナギナタコウジュ	カモシカ・シマヘビ	カラハナソウ	サラシナショウマ	オトコエシ	ミドリヒョウモン
天	☀	☀	☀	☁	☀	☀	☀	☁	☂	☂	☁	☂	☁	☂	☁	☀	☀	☂	☀	☀	☀	☂	☀	☂	☀	☀	☀	☀	☀	☁
℃	25	25	26	24	24	23	24	19	26	26	27	26	22	20	22	22	23	19	24	25	25	25	25	19	20	22	24	24	24	23
低	14	13	15	14	13	12	11	13	16	17	17	16	15	13	12	11	13	17	14	13	14	15	16	13	11	11	12	12	14	17